

## 事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 1月 1日

事業所名 コベルプラス 宝塚教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			
	②	職員の配置数は適切である	4			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4		各教室にきりん、うさぎ、りすの絵を表示して区別できるようにしています。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4			毎日清掃し、毎時消毒を行い清潔に保っています。
業務 改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4			広く職員が参画して改善に努めています。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			毎年実施して、業務改善に努めています。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			自己評価表をホームページで公開して、コベルプラスだよりにて情報発信もしています。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4		現在は行っていません。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4			機会あれば受講してスキルアップにつなげています。
適切 な 支 援 の	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4			アセスメント後に原案を作成して、担当者会議を行い検討して個別支援計画の作成を行っています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4			アセスメントツールを使用して状況を図ります。

提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4			地域の支援センターや相談支援事業所と情報共有を行い適切な支援を提供できるようにしています。
----	---	--	---	--	--	---

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		各職員も共通理解して支援しています。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		各自の個性を考慮して立案します	日々、チームで立案して決定しています。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		毎回、プログラムが固定化しないように工夫しています。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4		子どもの状況に応じて、組み合わせを考慮しています。	個別活動を基本に 2～3 か月ごとに集団で季節行事やイベントを行っています。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		毎日、打ち合わせを行っています。	職員間で必ず打ち合わせして支援内容や療育を検討しています。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		毎日振り返りを行い、共通認識を持って次回の支援に繋げています。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		療育時間終了後に記録を行い職員間で共有しています。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		定期的にかつ変化のあった時にモニタリングを行い見直しています。	
関係機関	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		対象児童に精通した最もふさわしい物が参画しています。	

や保護者との連携関係機関や保護者との連携	②②	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4			関係機関や関係者と連携を行い支援しています。
	②③	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			必要に応じて情報共有を行い、来所いただいています。
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている				
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4			他の発達障害者支援センター等の専門機関と連携して研修を受けています。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4			機会あれば参加しています。
	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4		宝塚市は公的機関のみで開催されている為参加が難しい。	基幹相談センターへ問い合わせ済。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			日常的に伝え合い共有しています。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4			コロナ禍は個別に行いました。
保護者	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			契約時に丁寧に説明を行いその後は必要に応じて行っています。

への説明責任等	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4			保護者に個別に説明し同意を得ています。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		必要に応じて助言と支援を行っています。	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4		コロナ禍は感染を鑑み 2～3 名での実施としました。	5 類への変更はあったものの感染状況をみでの開催とさせていただきます。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		迅速かつ適切にその都度対応させていただいています。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		コベルプラスだよりにて毎月発行しています。	行事予定や活動報告を毎月発信しています。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	4		慎重に取り扱っています。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		カードの使用や身振り手振りを使い伝えています。	対象児童に必要な方法を考へて行っています。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4			
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		マニュアルを作成し保護者へ周知して訓練にもご協力いただいています。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		定期的に行っています。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4		アセスメント時に状況の確認をしています。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		対応しています。	アセスメント時に必ず聞くようにしています。

④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		東京本部へも報告をしています。	
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		対応しています。	会議で周知しています。
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4		保護者への事前に説明を行い、了解を得ています。支援計画にも記載をしています。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。